

教科	国語	単元名	かんじのできかた
----	----	-----	----------

## 本時のねらい

- ・一年生に担当されている漢字の字形や成り立ちを理解することができる。
- ・漢字の成り立ちを理解することで、漢字が一文字で一音ではなく、二音、三音と読む場合があることを知る。また、形と意味を結びつけることで、漢字の習熟をはかる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・解読指導単音アプリを用いることにより、ひらがなの濁音、拗音の読み方に慣れる。複数で読みあう時と、個人で練習する時を作ることで、学習意欲を高める。
- ・イラストから漢字に、また、漢字からイラストに変化していく様子を、動画で見ることにより、視覚支援によって漢字の字形と意味をつなげて理解することができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・解読指導単音アプリ
- ・動画「うごくよ！かんじのなりたち一年生」
- ・Apple TV
- ・iPad

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解読指導単音アプリを用いて、ひらがなの濁音、拗音を、個人練習する。その後、TV 画面を使い、全員で画面に映った濁音、拗音を読み合げる。</li> <li>・本時のめあて「かんじのかたちは、なにからできたか」を確認し、「山」の漢字は何からできたかを考える。</li> <li>・動画「うごくよ！かんじのなりたち一年生」を視聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解読指導単音アプリを使うことにより、テンポよく濁音、拗音の復習をする。また、全員で発声することにより、自分の意見を発表しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・イラストから漢字に、また、漢字からイラストに変化していく様子を、動画で見ることにより、漢字の字形と読み方、意味を意識させる。</li> </ul>
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードにばらばらに貼った漢字のカードとイラストのカードを、みんなでマッチングする。</li> <li>・マッチングしたあとの漢字のカードの読みを、イラストをヒントにして考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングできない時は、動画を再度視聴することで、正解を見つけられるようにする。わからない漢字のところだけを、再度戻って視聴できるので、集中力を途切らせることなく学習することができる。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントの漢字をなぞり、その下に読み方を書き込む。</li> <li>・本時でわかったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンに発表例文を映し出す。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 : 解読指導単音アプリを、全員で読み上げている様子



写真 2 : 「うごくよ！かんじのなりたち一年生」動画を視聴している様子



写真 3 : 動画で知った情報をもとに、カードをマッチングさせている様子

## 児童の反応や変容

アプリを用いることによりゲーム感覚で学習に取り組むことができ、単調になりがちな、基礎的な内容の学習に対しても興味を持って進められるようになった。また、イラストから漢字に、漢字からイラストに変わっていく様子の動画が視覚支援となり漢字の成り立ちを理解することができた。漢字に苦手意識のある児童も、興味を持って取り組むことができた。「漢字は、はじめに絵がある」と、漢字の形から意味を類推しようとする発言がみられ、わからない漢字も「これ、どういう意味の字？」と聞くことが増えた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

一人ひとりがタブレットを使うことで、個別学習の時間が充実し、基礎的な知識・技能の定着に役立っている。今後、全体の中で自分の力の伸びを確認する場面を作り、学習意欲の継続につなげることが必要である。また、タブレットだけではなく、教室の前に来てカードをさわって動かしたり、プリントに漢字と読みを書いたりして複数の活動を組み合わせることで、集中しにくい児童でも最後まで学習に取り組むことができた。